

①重点目標	a 確かな学力定着のための授業の充実 【学習】【各教科】	b 自主的な学習態度の育成 【学習】【各学年】		
②重点課題	1 組織的な授業研究の取り組みと成績不振者対策の徹底	2 自主的な学習計画の作成と適切な家庭学習時間の確保		
③現状	<ul style="list-style-type: none"> 各教科において年1回の研究授業、校内において年2回の公開授業を実施している。 年々、各学年における成績上位層と下位層の幅が広がりつつあり、且つ下位層の人数が増加傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 特に1・2学年において、毎日規則正しく家庭学習するという習慣が十分に確立されていない。 平日の家庭学習時間が十分に確保されていないうえに、休日においても時間をかけた家庭学習がなされていない。 		
④達成目標 A：達成できた。 B：概ね達成 C：達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> 各教科において、公開授業や研究授業を通して優れた教授技術を科内全員で共有する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1・2学年において毎日規則正しく家庭学習する生徒の割合 80%以上。 	B
	<ul style="list-style-type: none"> 各学年における学年末の成績不良者の数ゼロを目指す。(長期欠席者を除く) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 休日の家庭学習時間「学年+5」時間の達成率 80%以上。 	C
			<ul style="list-style-type: none"> 平日の家庭学習時間「学年+2」時間の達成率 80%以上 	C
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の公開授業や研究授業の後、科内において十分な協議・検討を行い、よりわかりやすい授業の研究に取り組む。 各科において、定期試験や実力試験等の結果を丁寧に分析・検討し、生徒の学習状況を正確に把握する。 土曜講習、夏期講習の効果的な実施方法および教材の適切な選択を検討し、生徒の基礎学力向上につなげる。 学期末において成績不良と判断される生徒に対しては、学習指導部、学年が協力して特別指導を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> シラバスを有効活用し、生徒一人ひとりがしっかりと家庭学習計画を立てられるよう指導する。 特に部活動に参加している生徒に対し、あらゆる機会を利用して休日における効率的な時間の利用等について指導する。 丁寧な面談により、計画の実施状況を確認しながら個々の生徒に応じた助言を適切に行う。 進路目標の早期確立を助け、目標達成のための学習意識の喚起と意欲向上を促す。 		
⑥評価 *栃高評価満足度%は1そう思う+2大体そう思うの割合を表し、()は5わからないの割合を表す < >…昨年度データ	<p>栃高評価②：生徒 58% (7)<54(6)> 保護者 70% (19)<87(0)> 栃高評価⑤：生徒 68% (5)<70(6)> 保護者 54% (31)<84(0)></p> <ul style="list-style-type: none"> 6月の第1回公開授業においては、ほぼ全員の教諭が2名以上の同一教科他教諭の授業を見学し、その後教科内で検討会が行われたが、教科によっては十分な教授技術の共有までには至らなかった。また、2学期以降ほぼ全ての教科において研究授業が行われた。 1学期末より数は減少したが、各学年において若干名の成績不良者が見られた。 	<p>栃高評価①：生徒 77% (4)<81(3)> 保護者 93% (4)<94(5)> 栃高評価③：生徒 67% (4)<71(3)> 保護者 78% (5)<95(2)></p> <ul style="list-style-type: none"> 第2回学習実態調査(10月)の結果 毎日規則正しく家庭学習している生徒：1年 45% 2年 50% 平日の家庭学習「学年+2」：1年 10% 2年 5% 3年 18% 休日(日)の家庭学習時間「学年+5」：1年 6% 2年 2% 3年 22% 		
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度のクラス編成についての現状と栃高評価⑤の問い方については、改善が必要ではないか。 アンケートの「5わからない」を減らすためにも、保護者への通知の仕方など、周知方法に工夫がほしい。 丁寧な指導もよいが、生徒の競争心を刺激する仕掛けも必要だ。 	<ul style="list-style-type: none"> 栃高の授業についていくにはかなりの学習時間が当然必要なので本当はもっとやっているのではないか。そうでないとすれば自学自習を促す授業になっていない可能性もある。 高校の学習習慣を身につけさせるために、やはり入り口指導が大切である。 		
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> 各教科において、生徒が主体的に授業にかかわることのできる参加型の授業展開を研究する。 成績不良生徒の徹底指導を図るとともに、中・上位生徒の更なる向上のための方策を探る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生の段階において家庭学習習慣を定着させるために、入り口指導の徹底を図る。 進路指導部と連携し、進路目標の早期を確立を助けることにより、学習に対する意欲向上を図る。 		

①重点目標	c 進路希望実現のための効果的な進路指導の実現 【進路】【各教科】【各学年】			
②重点課題	3 三年間を見通した進路指導計画の実践	4 模試データ分析の効果的な活用と適切な進路情報の提供		
③現状	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画を進路指導部で作成し、各学年担当を中心に、進路講演会、キャリア教育講演会や、大学学部学科説明会を実施している。また、出張講義では、学習指導部と連携し、全職員での実施を計画している。 東北大オープンキャンパス、つくば学問研修、東京研修など、特活部との連携も強化し、進路意識の醸成に努めている。 			
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	・3年次の適切な進路選択に向けて、1・2年次からの系統的な進路学習を行う。	B	・校内ランキングの見直しや適切な情報提供を行い、進路指導委員会を充実させる。	B
	・LHRや総合学習、講演会等の進路関係行事や土曜講座の計画を行い、実践する。	B	・学年・教科で模試結果の分析を行い、そのデータを踏まえて、個々の生徒や学年全体の指導の改善を強化する。	C
	・各学年の指導資料をデータ化し、体系を完成する。	C	・進路情報の充実と、その利用環境の改善を図る。	A
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 1年次からの進路学習を充実させるため、その出発点として、働くことや探求することの意義を実感させるべく「キャリア学習会」や「出張講義」を実施する。 三年間を見通したLHRの計画・実践および土曜講座を充実させる。その実践の中で、単に高校生活だけではなく、将来を見通した進路学習計画を模索する。 各学年のLHRの資料や土曜講座の計画、学年独自の進路関係行事の実施記録および長期休業前指導などの使用資料を電子データで整理し、進路学習の体系を確立する。 			
⑥評価 <small>*栃高評価満足度 %は1(そう思う)+2(大体そう思う)の割合を表し、()は5(わからない)の割合を表す < >…昨年度データ</small>	<p>栃高評価②：生徒 58 % (7) <54 (6)> 保護者 70 % (19) <87 (0)> 栃高評価④：生徒 79 % (5) <82 (5)> 保護者 92 % (3) <94 (3)></p> <ul style="list-style-type: none"> キャリア学習会、出張講義などの進路学習は充実してきたが、土曜講座やLHRの体系的な実施は、まだ十分でない。 進路指導委員会を中心とした指導体制が構築されている。 			
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通した生徒への指導も大切であり、先生方の進路指導ノウハウの伝承のためにも、先を見通した指導体制の構築が重要である。 			
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を通した進路学習について、より積極的に配信する。 生徒が主体的に自己の進路を探していく方策を構築する。そのためには、他部と協力し、「総合的な学習の時間」や進路関係行事からのキャリア教育の展開の工夫が必要である。その上で生徒が心の底から「感じる」体験活動の構築を目指す。 			

①重点目標	d 読書量向上への指導の実践 【図書館】	e 健康的な生活のための生活習慣の確立 【保健厚生】【生徒指導】		
②重点課題	5 効果的な読書指導の実施	6 生涯を通じて心身共に健康な生活を送るための健康管理能力の育成		
③現状	・貸し出し数は伸びてきているものの読書奨励が十分ではないため、効果的な読書指導がなお途上段階にある。	・学校側が生徒に対して十分行っていると考えている「健康に関する指導」は、生徒には必ずしも十分であるとは受け止められていない。 ・不登校生徒対応マニュアルを作成し教育相談係が中心となって学年担任と連携し対応している。		
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	・貸し出し数目標5000冊	A	・毎日運動を継続する生徒80%	B
	・談話会年間5回以上実施	A	・保健だより毎月発行と保健委員の活用	A
	・読書会年間3回以上実施	A	・各クラス出席率99.5パーセント	C
⑤具体的な取り組み	・学校訪問の活性化 ・「図書館コーナー」(進路室わきと多目的ホール)の整備 ・掲示板、放送などを使った広報活動の拡大 ・ホームページの継続的更新 ・「談話会」の継続及び「読書会」の新規実施		・健康的な生活習慣に関する指導計画を作成し、当該教科や保健室利用生徒に適宜指導し実践を促す。 ・保健だよりを活用し、健康に関する情報を発信する。 ・不登校生徒対応マニュアルに基づき担任、学年、係、養護教諭と連携し情報交換・検討会を行い具体的指導案を作成し対応にあたる。	
⑥評価 *栃高評価満足度%は1そう思う+2大体そう思うの割合を表し、()は5わからないの割合を表す < >…昨年度データ	栃高評価⑦生徒71%(5)<69(5)> 保護者56%(32)<77(9)> ・生徒からの評価はまずまずだが、保護者からの評価に5わからないが多い。 ・読書会実施については年度末に3回達成できる見通し。 ・達成目標全体の達成率は概ね良好だが、1年生への貸出数が例年に比べ少ない(それでも県内の男子校の中では、前年度に引き続き総貸出数1位を記録している)。		運動実施状況 週3日以上 1年66.4% 2年63.8% 3年39.4% ・3年の運動量が落ちる。 栃高評価⑧ 生徒38%(4)<43(4)> 保護者65%(16)<73(9)> ・健康指導に関する意識がかなり低い 栃高評価⑨ 生徒43%(12)<44(11)> 保護者69%(14)<80(9)> ・相談体制に対する満足度が低く、保護者の満足度は下降した。 出席率全校計 98.9%(4月～11月) 月間出席率99.5%以上のクラス数 (延べ32)=25.4% ・長欠生徒や不登校生徒の影響で下回ったクラスが多い。	
⑦学校関係者評価	・将来期待されている、リーダーとしての資質を身につけるための一つの重要な手段として、読書の奨励はますます強力にすすめてほしい。		・相談体制についての満足度が低いのは、その体制にお世話になる生徒が少ないから、とも言える。仕組みそのものの周知は様々な機会を通して徹底できるのではないかと。	
⑧次年度への課題	・談話会の参加人数に関して、回によってバラツキがあるが年間平均20名以上を確保する。 ・読書会開催を現行の2年生のみならず1年生に対しても拡大していく。		・運動の継続と健康的な生活習慣の実践について更に指導していく。 ・栃高評価⑧の設問が具体的すぎて指導項目が限定されてしまっているので、設問の仕方を改善したい。 ・保健だよりを保健委員の説明とクラス掲示で実施していたが、全員に配布して個人に意識付けをしていく。	

①重点目標	f 特別活動の充実と生徒の積極的な参加への指導 【特活】			
②重点課題	7 充実した学校祭の企画と実施	8 充実した体験活動等の企画と実施		
③現状	<ul style="list-style-type: none"> 生徒実行委員会が主導して文化委員等生徒会組織を動かし、全員参加による学校祭を企図しているが、生徒の自主・自律性が十分に発揮されているとは言い難い。 文化的企画と娯乐的企画とのバランスが不十分である。 地域社会への事前のアピールが不十分である。 クラス・学年・学校全体の一体感を育てている。 			
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	・入場者目標延べ2000人(雨天時1500人)	A	・移動教室参加目標人数(東京宿泊研修80名、史跡・東北大見学80名、スキースノーボード教室 80名)	A
	・クラス文化委員会(全体および学年別)の定例実施	A	・長期休業に合わせた校外研修・海外研修の紹介および参加募集	A
	・「文化講演会」を実現、入場者数 最大時200人と御聖蹟入場者目標の延べ200人の達成	A		
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 生徒実行委員会を定例化し生徒会係職員との連携を強化する。 クラス企画が準備段階から計画的に取り組めるよう文化委員と実行委員との連携を密にし文化委員の指導性の強化を図る。 生徒実行委員会だけでなく、福祉国際理解委員会、図書委員会、進路委員会等の生徒会組織全体を機能させ、学校全体を活性化させる。 学校HPを活用し、学校祭プログラムを事前告知する。 学校全体の一体感を育てるために、後夜祭企画は内容をスリム化し、全学年参加型企画を目指す。 第60回記念企画の実現を図る。 			
⑥評価 <small>*栃高評価満足度 % は1そう思う+2大体そう思うの割合を表し、()は5わからないの割合を表す < > ……昨年度データ</small>	<ul style="list-style-type: none"> 栃高評価⑩ 84%(2)<79%(1)> 保護者 96%(1)<92(2)> 入場者 2186名(過去最多を更新) 文化講演会 246名、御聖蹟 558名、養正寮(今回初公開) 274名 参加委員会として福祉国際、図書、進路(昨年と同) 生徒実行委員会からクラス文化委員に対する定期的組織的対応がなされ、生徒主導によるクラス企画の一層のレベルアップが図れた。 第60回記念企画として、OBである放送作家による講演会、オリジナルソングの募集・製作・発表が行われた。 			
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が生徒同士の関わりの中で自己を見いだしていくよいチャンスである。ますます充実させてほしい。 			
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> 生徒主導によるより自発的計画的な栃高祭への取り組み クラス企画における全員参加性の完全確保と文化性の向上 地域へのより計画的な事前情報発信 			

①重点目標	g 規範意識と自主性の向上		【生徒指導】	
②重点課題	9 社会生活におけるルールの遵守とマナーの向上	10 集団生活における規範意識の向上		
③現状	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導部交通安全係指導の下、生徒会交通委員会が中心となり、交通事故撲滅、交通ルール遵守、マナー向上に努めている。 連休、長期休業前等に問題行動防止指導を徹底している。 		<ul style="list-style-type: none"> 全職員が共通理解の下、担任、学年と連携をとり生徒の規範意識の高揚に努めている。 	
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故発生、傘差し運転、並進、ヘッドフォン使用運転ゼロ。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 制服着用マナーの向上。(服装注意書発行枚数ゼロを目指す) 	B
	<ul style="list-style-type: none"> 自転車、歩行等のルール、マナー違反等に対する地域の方からの苦情件数ゼロ。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 校内における携帯電話使用ゼロ。 	C
			<ul style="list-style-type: none"> 金銭、物品の紛失ゼロを目指す。 	A
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 交通委員会を中心とし、生徒の自発的啓発活動を促す。 全職員が協力して生徒の交通指導を行い、立哨指導等を実施し安全指導に努める。 H R、授業等において新聞記事や交通事故事例等を参考に事故に遭わない、起こさない等の指導を日常的に行う。 学級担任、教科担任が注意深く生徒を観察し働きかけを行い問題行動の未然防止指導を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> 『その時、その場で、その人が』注意指導を心がけ服装指導を行う。 制服着用マナーの著しく悪い生徒に注意書を発行し自覚を深めさせると共に保護者にも注意を喚起する。 校内での携帯電話使用、着信音について、その是非については毅然とした態度で指導を行う一方、原因や背景等についても理解を図る。 貴重品管理の徹底指導を行うと共に様々な場面で予防指導に努める、と共に他者の権利を尊重する精神の醸成に努める。 	
⑥評価 *栃高評価満足度 % は 1そう思う+2大体そう思うの割合を表し、 ()は 5わからないの割合を表す < >・・・昨年度データ	<p>栃高評価⑫：生徒 68 % (1)<75(2)> 保護者 70 % (18)<89(2)> 栃高評価⑭：生徒 53 % (4)<56(5)> 保護者 73 % (13)<89(2)></p> <ul style="list-style-type: none"> 交通事故3件発生、ヘッドフォン使用、傘差し、並進等は激減した。 登下校時の交通マナー、列車利用マナーに関する苦情が数件寄せられた。 		<p>栃高評価⑬：生徒 70 % (3)<73(3)> 保護者 85 % (5)<94(2)></p> <ul style="list-style-type: none"> 制服着用の著しい乱れはないが学生服のボタン解放等部分的な着崩しが目立った。 携帯電話着信音、休み時間使用生徒延べ41名指導。(実38名) 自転車、金銭盗難の報告はゼロで、所持品等の自己管理は徹底できた。 	
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 社会が栃高生の進路実現の先に期待しているのはトップリーダーとしての存在である。より高いレベルの規範意識を醸成してほしい。 問題行動が他の生徒に波及しないところが栃高の良さであると思う。それを維持してほしい。 		<ul style="list-style-type: none"> 生徒と教師の双方に余裕がほしい。 切磋琢磨の観点から、生徒同士で指導しあう体制も作ってもらいたい。 	
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> 次年度も引き続き傘差し、並進、ヘッドフォン使用運転等に関しては啓蒙活動、立哨指導中心に実施し目標をゼロに指導を行う。 交通事故に関しては、新聞記事や事故事例を参考に防止指導を徹底する。 		<ul style="list-style-type: none"> 生徒観察のための巡回指導を強化する。 服装指導に関しては、教職員の共通理解および指導の一貫性を更に高め徹底したい。 携帯電話使用ルール等を掲示し啓発指導の徹底をはかる。 	

①重点目標	h 環境教育への積極的な取り組み 【保健厚生】	i 広報活動の充実 【渉外】【教務】		
②重点課題	1 1 ゴミ・資源問題への意識の向上と学校生活（学習）環境向上への取り組み。	1 2 家庭・中学校・地域社会への積極的な情報の発信		
③現状	<ul style="list-style-type: none"> ・教室や廊下に落ちている紙くずの放置，教室前廊下のロッカー上が私物で散乱している教室等が見られる。 ・ゴミと資源の分別回収は概ね良好であるが，可燃ゴミの量を減らすことができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「校報」を年4回発行（6月，7月，10月，3月） ・中学校訪問用持参資料の作成 ・ホームページの定期的な更新 ・「PTAだより」を年2回発行（9月，3月） ・PTA総会（5月），学年研修会（3年6月，1・2年9月）において，進路指導や生活指導の取り組みや現状について情報の提供。 ・PTA評議会を年4回開催。 		
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの減量化の推進（可燃ゴミの量を月間1200kg以内とする） 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「校報」の内容充実 	B
	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの放置，ロッカー上の私物の散乱等の指摘ゼロを目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの内容充実 	C
			<ul style="list-style-type: none"> ・「PTAだより」の内容充実 	A
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・環境美化委員会による清掃状況の確認と，清掃用具点検を実施する。 ・環境美化委員会を中心とした資源ごみのリサイクル運動を推進する。 ・環境美化委員が学習環境を整える意識の啓発を促し，月に一度教室環境をチェックする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「校報」「ホームページ」に学校評価のまとめを掲載する。 ・「校報」に教員の顔が見えるような記事を掲載する。 ・中学校への公開授業時に学校をPRするための資料を作成する。 ・PTA評議会において，ニーズに応じた情報提供を検討する。 ・「PTAだより」に保護者の意見・感想をさらに積極的に取り上げ，情報を共有し，連携を強化する。 		
⑥評価 *栃高評価満足度%は1そう思う+2大体そう思うの割合を表し，()は5わからないの割合を表す <>…昨年度データ	<p>栃高評価⑬ 生徒 67% (3)<67(4)> 保護者 52% (34)<73(11)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校での環境活動に対する取り組みが，保護者まで十分に伝わらない。 可燃ゴミ合計量 12,553Kg (14,020Kg) ・4月~11月の合計量がわずかに減少 月例大掃除後の教室環境チェックを実施 ・概ね良好 	<ul style="list-style-type: none"> ・「校報」の内容は現在のところほぼ例年通りとなっており「教員の顔が見える」内容にまでは至っていない。 ・「ホームページ」は行事ごとの更新はできたが，定期的な更新や各ページの内容充実には至っていない。 ・PTA評議員会，PTA総会，学年研修会等において進路に関する情報等を適宜提供できた。 ・「PTAだより」81号において，本部役員・評議員によって上半期の活動報告ができた。 		
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・時代の流れを捉えた指導が大切である。ますます環境に対する意識を高めてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通学エリアの変化も含めて学校を取り巻く状況の変化が激しい。それに的確に対応するためにも「広報」活動は特に重要である。様々な手段を工夫してもらいたい。 		
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの分別回収は定着している。今後更にゴミの計量を徹底し，数値を示すことでより一層の減量化を実践する。 ・エコキャップのリサイクル活動の継続と，節電に対する意識を高め，環境に配慮した校内活動を実践できるようにする。 ・教室や廊下，ロッカーの上の整理整頓に関してはこまめに指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「校報」の内容充実のために前年度からの具体的な検討が必要である。 ・「ホームページ」の充実のためには，システムの改変や担当教員の増員が必要である。 ・「PTAだより」の編集方針を検討し，さらなる改善・充実をはかる。 		